

企画展

# 描かれた女性像



立美人図 菱川師宣筆

平成19年4月6日(金) — 5月31日(木)

- 開館時間 9時—17時(入館受付は16時30分まで) 月曜日休館(月曜祝日の場合は翌日)
- 入館料 一般300円 高校生200円 小・中学生無料 友の会会員無料
- ギャラリートーク 毎週土曜日 14時から

【特別講演会】

講師 ● 佐伯順子氏(同志社大学社会学部教授) 演題 ● 「美人コンテストの返遷と描かれた女性像」  
 日時 ● 平成19年4月28日(土) 13時30分—15時00分 場所 ● 岡山県立図書館 2階 多目的ホール  
 定員 ● 100名 友の会会員 1,000円 一般 1,200円

林原美術館

〒700-0823 岡山市丸の内2-7-15  
 TEL(086)223-1736  
<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

# 描かれた女性像

近世・近代を通して、我が国では様々な絵画が描かれてきました。その中から、本展覧会では女性が描かれた作品を選びすぐって展示します。

一口に女性が描かれた絵画といっても、描かれる対象は実に様々です。岡山藩主の池田家に伝わった、大名夫人や縁者の肖像画は、江戸時代の士族の女性達の姿を伝えてくれます。また近世に盛んに描かれた遊楽図には、流行の服装に身を包み、思い思いの姿をした女性たちが生き生きと表現されています。

女性は物語にも描かれます。『平家物語絵巻』(江戸時代)に登場する人物は、圧倒的に男性が多いですが、白拍子の妓王・高倉天皇の寵妃だった小督局、木曾義仲の妻の巴御前や源義経の愛妃の静御前といった、歴史に名を残した女性たちが描かれています。また『名護屋一代記』(英一蝶筆)は、土佐浄瑠璃の「名護屋山三郎」を絵画化したもので、当時の様々な階層の人物が描かれています。

江戸時代に流行した浮世絵では、美人画が多く描かれました。主に若い女性を描いたもので、看板娘や遊女などがその対象となりました。浮世絵といえば多色刷りの錦絵が思い浮かびますが、当館所蔵の浮世絵はほとんどが肉筆の作品です。そして近代になっても、上村松園をはじめとして多くの美人図が描かれています。

女性の華麗にして豊潤、清楚にして枯淡、素朴にして力強いさまざまな姿をご鑑賞ください。

なお特別出品として、人形作家の石田さよ氏(日本工芸会正会員)の制作による、現代創作人形を展示します。



四季遊宴図屏風(右隻)



燈籠流し図屏風(右隻) 池田輝方筆

## 特別出品



惜春賦 石田さよ



寛政美人  
上村松園筆



向島の桜(四季風俗図の内) 葛飾北斎筆



秋雨(四季風俗図の内) 葛飾北斎筆

## 林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市丸の内2-7-15 TEL (086) 223-1733 FAX (086) 226-3089

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

\*車椅子対応の設備あります。

交通/JR岡山駅から徒歩25分/路面電車[東山行]県庁下車徒歩7分

岡電バス[岡電高屋行]県庁前下車徒歩3分

宇野バス[瀬戸駅前・四御神行]県庁前下車徒歩3分



### 次回予告

企画展「色絵磁器の粋—色鍋島の世界—」  
6月7日(木)~8月5日(日)

本展は当館所蔵の陶磁器の中から、將軍家への献上品として作製された優れた色鍋島とその他の色絵磁器をご紹介します。色絵柴垣桜花波瀾文七寸皿、色絵蜀江文五寸皿などの色鍋島や、色絵美人文六角壺などの色絵磁器を展示予定です。